品質マネジメント

基本的な考え方

OKIグループは「OKIグループ企業行動憲章」および「OKIグループ行動規範」を品質方針および商品安全に関する考え方と位置づけ、その内容をより具現化することで、品質保証体制の強化と、OKIグループ企業価値の向上を図っています。

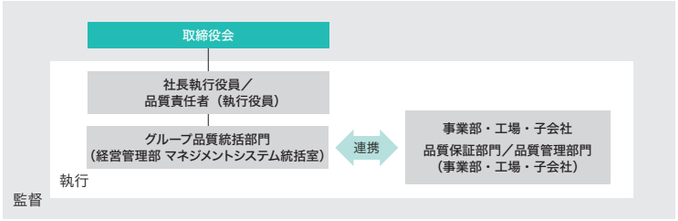


体制

OKIグループは、商品ライフサイクルに関するすべての部門・社員の活動によって商品の品質保証を実現しています。品質責任者のもと、グループ品質統括部門では品質コンプライアンス推進活動やグループ内の品質部門間のコミュニケーション活性化施策など、グループ共通で取り組む品質活動の企画・推進を行っています。また、事業部・工場および子会社の品質部門では、各事業分野の商品の品質維持・向上に向けた施策を実施しています。さらに、これらの部門はお互い連携してグループ全体の活動を推進しています。

OKIグループは、事業特性にあわせた最適な品質保証体制を整備して、すべての生産拠点でISO9001（品質マネジメントシステム）の認証を取得しています。

品質マネジメント体制（2026年10月1日現在）



主な取り組み

❶ QMS有効性向上（業務プロセスとの一体化）

事業本部ごとに構築していた品質マネジメントシステム（QMS）を2023年9月に統合し、QMS認証と組織・体制の一体化に向けた取り組みを進めてきました。2025年度は、QMSと業務プロセスの規定体系を一体化し、業務プロセスへのQMS組み込みに向けた取り組みを開始しました。今後は、有効性の検証をするとともに継続的改善を推進していきます。

狙い	QMSを業務プロセスに自然に組み込み、別物として意識せずに運用すること
効果	QMSの有効性向上に向けた基盤整備の推進

❷ 品質コンプライアンス推進（品質不正防止）

品質コンプライアンス推進活動計画に基づき、各種活動を継続的に実施しています。主な活動としては、社内第三者部門が実現場に出向き調査を行う「現場調査」や、自部門で計画して自ら改善を行い、自浄力向上を図る「品質コンプライアンス点検」、さらに全社員に対して「品質コンプライアンス教育」を行っています。

狙い	品質コンプライアンス推進活動により品質不正を防止
効果	グループ全体の品質不正　0件

品質コンプライアンス推進活動体系図

不正を生まない土壌づくりと不正防止策

活動分類	活動内容
第三者部門で計画して実施する活動（第3線活動）	業務監査
	現場調査
	危機事象案件の監視・提言
	ISO 9001外部監査
自部門で計画して実施する活動（第2線、第1線活動）	QMS内部監査、部門内チェック、工程パトロールなど品質コンプライアンス点検
	製品実現プロセスにおけるデザインレビュー活動
	各部門ソウコミ
	書面調査
意識啓発活動	経営層とのコミュニケーション 社長MBWA、経営層ダイアログなど社員とのソウコミ
	品質部門ダイアログ、品質コンプライアンス教育、グループ社内報、新入社員研修
	OKI・子会社の品質土壌改善活動 品質コンプライアンスの理解・教育活動、品質コミュニケーションなど

第三者部門で計画・実施する活動　自部門で計画・実施する活動

❸ 品質コミュニケーション

品質月間（11月）にあわせ、経営層ダイアログ、品質部門ダイアログなどを実施しています。

狙い	あらためて考える機会である品質月間に、経営層および品質部門とのコミュニケーションの場を設け、品質関連の双方向コミュニケーション（社内呼称ソウコミ）の活性化、人的ネットワークの構築を図る
効果	気兼ねないディスカッションを通じて、品質に関する経営層の考え方・想いを理解。また、品質部門間の施策共有、部門の壁を越えたコミュニケーションを促進

❹ 各事業分野の製品・サービスの品質維持・向上

事業部・工場および子会社では、設計開発から製造および保守まですべてのプロセスにおいて、継続的な改善活動により、常にお客様に満足いただける商品の品質維持・向上に努めています。

詳細は、以下Webサイトをご参照ください。
https://www.oki.com/global/ja/sustainability/social/quality/